

ハイデルベルク信仰問答より

問 64 ところで、この教えは、人々を、不謹慎で邪悪にするのではないのですか。

答え それは違います。なぜなら、真の信仰によってキリストに結びつけられている人にとって、感謝の実を結ばないということは、不可能なことであるからであります（マタイ 7:16-17、ヨハネ 15:5）。

恵みのみに依り頼む生き方の勧めに対し、敢えて最後に反論が置かれています。人の善事は神がもたらされる救いに何の効力も発揮しないとされるとき、それなら人は善いことをする意味は何もないのかと問うてくる人がいるかもしれません。たしかに、人は善い業を行なうに越したことはないのであり、悪を行なうよりはずっといいでしょう。他人を欺くよりは、偽りが無いほうがいいのは当たり前のことです。しかしながら、本問答書ではそのような次元のことが言われているわけではありません。

まず、この問いのズレているポイントを確認しておきましょう。それは、これまでの問答において言われてきたことを相変わらず捉え違えているという点です（もちろん、そういう設定になっているだけですが）。これまで再三言われてきていたことは、神がもたらし給う救いに寄与する人間側の「善事」は存在しないということです。救われた結果としての「善事」（感謝の実）は存在するのです。しかし、それでいて「感謝の実」としての善事も、その人の救いそのものには何の影響も与えておらず、相変わらず主の恵みのみによって人は救われているのです。だからこそ、私たちは安心して生きていけるのです。もし私たちが善を行なったか否かによって救いの状態が変化するとしたら、それは絶えずグラグラと揺れ動くばかりか、私たちの救いはたった一つの失敗によって直ちに取り去られてしまうでしょう。罪ある者には 100 パーセント善を行ないきることなどできないからです。

問 64 では、「感謝の業」の部分が置き去りにされてしまっています。救われた人はその安堵と喜びによって、主の喜ばれる生き方を探るようになるのです。むしろ「不謹慎で邪悪」（無分別で放縦）な生き方を憎むようにさえなるでしょう。

答えの中で「真の信仰によってキリストに結びつけられている人」という表現があります。これは、キリストに接木されていることを言い表しており、主イエスという幹から養分をもらい、枝から豊かな実が生っていくイメージです。ヨハネ 15 章における「ぶどうの木のとえ」で主が語っておられる事柄は、主イエスと弟子との関係をよく描いています。主イエスに結びついていなければいのちがあるが、主イエスから離れてしまえばいのちを失うという、単純な構図です。

わたしはまことのぶどうの木であり、わたしの父は農夫です。わたしの枝で実を結ばないものはみな、父がそれを取り除き、実を結ぶものはみな、もっと多く実を結ぶために、刈り込みをなさいます。あなたがたは、わたしがあなたがたに話したことばによって、もうきよいのです。わたしにとどまりなさい。わたしも、あなたがたの中にとどまります。枝がぶどうの木についていなければ、枝だけでは実を結ぶことができません。同様にあなたがたも、わたしにとどまっていなければ、実を結ぶことはできません。わたしはぶどうの木で、あなたがたは枝です。人がわたしにとどまり、わたしもその人の中にとどまっているなら、そういう人は多くの実を結びます。わたしを離れては、あなたがたは何もすることができないからです。だれでも、もしわたしにとどまっていなければ、枝のように投げ捨てられて、枯れます。人々はそれを寄せ集めて火に投げ込むので、それは燃えてしまいます。あなたがたがわたしにとどまり、わたしのことばがあなたがたにとどまるなら、何でもあなたがたのほしいものを求めなさい。そうすれば、あなたがたのためにそれがかなえられます。あなたがたが多くの実を結び、わたしの弟子となることによって、わたしの父は栄光をお受けになるのです。（ヨハネ15:1-8）

それゆえに、「感謝の実を結ばないということは不可能」という結論になるのです。私たちは主イエスに結びついている限り、その溢れるいのちによって「御霊の実」を結び続けていくことができるでしょう。